

TAIGA

interviewee たいが
interviewer ポッター
camera ちゅん

10th
たいが
夢のみなもと
かざぐるま
11th

一生
全
力
で
目
指
し
た
二
年
間

青とピンクと山吹
そしてかざぐるま



歴代代表インタビュー
10期「夢のみなもと」11期「かざぐるま」

たいが

チーム初の2期連続代表を担った、おじさんのお話



2006年 夢源風人加入
2008年 7期 副代表
2011年 10期 代表
2012年 11期 代表
2017年 太る ~現在

「思い出すの楽しく
なってきた(笑)」

INTERVIEW

さあ、歴代代表インタビュー、早くも4回目でございます。

皆さんからのアンケートを見てると、なかなか好評ということですね、今回また、皆様からいいコメントをいただけるのではないのでしょうか。自己紹介お願いします。

いつものいけます！いつも感謝、冷静に丁寧に正確に、みんなの夢がかないますように！

ぴとうのスマイル担当、たいがです！

はい、うちマンです！たいがと僕は実は同期。

よさこいの出会い、それからぴとうを知ったきっかけを教えてください。

よさこいとの出会いは、

母親がこいや祭りにハマりまして、「チームを作りたから振り覚えて教えないから！」って強制され(涙)振り覚えて、地域の子供達に振り覚えてました。それがよさこいとの出会いですかね。

で、ぴとうを知ったきっかけは、2005くらいに中之島祭りに関わってる人らが中夜祭か何かで自分らの出し物で太鼓をしたいってことで、母から「太鼓を教えなさい！」と命令が下り(涙)で、教えてた人が夢源風人っていう暴走族みたいな名前のチームの人でした。そこで初めて知ったんちゃうかな？

なるほど。今こそ、陽気なキャラ取ってるけど、昔は、陰キャラでございました！

僕が初めて会った時は隅っこで座ってる感じの。本を読んでましたね。今よりも重度の人見知りでしたね。今もですけどね

そんな陰キャラだったたいがくんなんです。ぴとうの経歴を調べていくと、結構中心人物として関わってるんです。まずは代表になる前に、7期副代表だった。これはどういうきっかけで、副代表になたんですか？

2007年に中央スタッフ

(その期にしかなかった伝説的なスタッフ)をしてよさこいというより夢源風人のことが好きになりました。ハマったというのか。で、次の年もチームのために何かしたいって思いがあった。

きっかけとしては、あきべーが代表に立候補したんです。その時に副代表しない？と誘われたからです。ただ、当時の代表は承認制で、あきべーまさかの落選。まあ、あの時代に大阪にくるって話やたんやけど(後に名古屋勤務が発覚)、かつ彼は社会人一年目やったので、まだ早いやうかっていうので、大人が心配して止めた感じでした。

結局、違う人が代表になって、副代表として一年間イケイケしてました！

2008年、ぴとうで知ってる人って何人ぐらいいるかな？っていうくらい。

僕個人的に、MCやる側としても「響」が一番好きやった。ぶんちゃん、キレッキレの時代でMC。こいや祭りは、ぶんちゃんめいMCがあるので、ぜひ動画を見てもらいたいっ！

あ、ありがとう(笑)

スタッフや副代表

をしてと、母親血をまさに受け継いでおりますが、やっぱりよさこいとは離れられない。

そうですね。まあ似てるのは(外見)父親ですけどね(笑)

さあ、本題です。

今現在は18期。節目の年の第10期の代表が「たいが」でございます。

(得意げに目元ピース)あ、これ動画やから意味ないわ、(笑)

10周年という節目の年の代表する。なんでやろうかなと？なにか出来事みたいなのがあったら教えてください。



本当は9期の代表の予定だったんですが、他の人がするってなって、譲りました。なので、10期をやるつもりで、一年間の充電期間をもらって、10期の代表になりました！

考えてく中で「演舞」ってところを見つめなおしたって気持ちが強くなり、それが10期の演舞に反映されてると思います！

24歳か25歳だったので、猪突猛進でしたし、ナイフみたいに尖っておりました、色々とね(笑)まあ付き合いくらい代表やっただと思います(笑)

でも、僕のことを理解してくれる人たちに囲まれてたので、僕はめちゃめちゃ楽しかった！

—— 10期は、ぴとらが最初に大きく変わるタイミングだったと思います。思い出深い話とか、演舞のこととかありますか？

じゃあ、まずは曲。

「雑音軒」という作曲家集団の願いをして、作ってもらいました。

すごい素敵な縁をいただきました。高知のチームさんを多く作曲してる方がぴとらの曲を作ってくれるというの嬉しかった。

毎年、その期の曲を初めて聞く日はありますけど、鳥肌が立ったのは10期の「夢のみなもと」だけ。震えた。本当に。

衣装は3色展開に挑戦しました。

男振りが青で、女振りが山吹とピンク。昇華プリンとも10期が初めてだったと思います！前面は色鮮やかで、背面はシックに。好きですね、衣装も！

そして振り。自分たちで作りました！みんなが少しずつ協力して作っていきました！

振り返ると体の使い方とか、もっと出来ることはあったんでしようが、みんなで作る演舞のものは、振りにあったなあと思ってます！

8列隊列とか、16列隊列とかクレイジーな隊列移動とかニヤニヤなポイントが多くて好きです。

リバイバルしたい。リターンでもリターンでもリターンでも何でもいから一度ね。

あとは小物を取り入れました！提灯と傘と小旗っていうのを使ったのはこの年でですね。やりたいことを詰め込んで詰め込んで詰めて詰めて詰めた10期でした。思い出すの楽しくなってきた(笑)

—— 大きく変わるきっかけのスタート出会ったと思いますけども、高知の思い出とかってというのは何かありますか？

語ったら長くなるかもしれないけど、大丈夫？

すでに長い？

大変でした。(笑)

んー、130人超えの人たちをまとめるっていう経験がないのと、それをやってきた人たちもいないので、どうしたらいいのかないのってというのがすごく不安ではありました。

ただ、若さだけで突っ走ってたなあ。

だから、ダメな点とか、もっとうすればよかったとかね。

後は、スタッフや踊り子に、「ついて来い」っていう感情は出せたけど、「ありがとう」が出せなかったっていうのが、10期の一番の反省点というか、高知の反省点というか、高知の思い出としてはそこが残ってますね。だから、高知に関しては楽しいっていうよりは、悔しいが強く残った10期ですね。

—— そんな高知でも、ぴとらにとっては初めての出来事があったわけですよね？



全国大会っていうのに初めて出れてました。エントリーの時期が4月やって、出来上がってるものに対しての自信がすごくあって、何やったら賞取れるんちゃうかな？みたいな気持ちではいたんです。まあ、甘いんですけど。クソ甘かったです。

人の集まり方であったりとかっていうので、挑戦してみました！

踊れてよかった！全国大会、面白かったです！「かざぐるま」は落ちましたけど。。。(笑)

—— それでは10期のお話たくさんしたんですけども、11期もたいがが代表でした。

今でこそ、2年連続代表者が多いんですけど。連続で代表をやるきっかけとか出来事というのがあれば。

そうですね、10期で高知参加者が130人を超えたんです。すごいありがたいうことで、幸せだったんですけど。力不足だった。

高知をうまく回せなかったというのと、もっと運営をうまく出来たんじゃないか？って思いがあったって2年連続で代表をしました。

運営を整えたいっていう気持ちで2期目の代表の時には、強く出ましたね。他にもちょっと、任せられる規模になつてなかった。という感じもありました。

新しいメンバーを含めた事務局4人で、もがきながらやりましたね。あっ！事務局体制になってからないんじゃないですか、事務局全員がいでしょうか、事務局全員が20代の事務局。

楽しかった！もがくのって楽しいですよ！皆、ぜひ！

いろいろと苦しい時もありましたけどね。(笑)

何か事務局体制が整ったのは11期のおかげだと思っっています。一緒にやってくれた人たちには感謝しかないですね。

—— 11期はテーマは「かざぐるま」というテーマでしたね。演舞や高知の思い出とかを教えてください。

誰かが案を出してくれて、決めたんだと思います。。。

テーマは公募制だったんで。かざぐるまって分かりやすいでしょ？

何をしたいか？っていうのを、しっかりと持ちたかったのと、ひらがなでかざぐるまが可愛かったっていうのもあって、「かざぐるま」に決まったんだと。

たぶん。。。

演舞に関しては演舞会としての作って、曲・振り・衣装・地方車をみんな話していくグループってのを作りました。僕は基本的には運営に注力したい気持ちが強かったので、お願いしてましたね。

曲は「よさこい節」をみんなで歌う！ってのが印象的です。曲自体もかわい。歌詞も印象深い。エンドレスで聞ける好きな曲です！

衣装は脚絆ってのを取り入れた年でした。半ズボンみたいな案もあったんですが、当時の副代表の思いで無くなりました！（笑）一番印象に残っているのは、地方車です。

デザインの段階で、うちにしか作れない地方車やと思ってました。地方車をかざるまだらけにするって面白かった。

当時は地方車もチーム手作りだったので、かざるまを大量生産しました。クリアファイルみたいなのを切って、ハトメして、をひたすら繰り返しました（笑）

作ったものを、前入りの時に地方班が頑張って、ピスで止めていくっていう。すごい作業をしました。大変だったんですけど、テーマや、曲の感じ、その時のチームの空気感ってのが表現できていたんじゃないかなと思いますっ！



「かざるま」の高知は、

高知募集が1週間で終わりましたっ！毎年、募集で大変な思いをしてたんですけど、簡単に100人を超えた。10期の評判だったり、11期への期待だったりとかってのがありがたかった。なので、まず苦労しなかった（資金面）。

実際の高知は、僕の仲いい人たちがいっぱい踊ってくれたし、10期の経験値もある。だから高知の運営は上手くいった感あるし、楽しかった！楽しい楽しい高知でした！少し余裕を持てたのも良かったのかも。

で、また地方車に戻るけど、かざるまが風で回るので、帯屋町とかお客さんが近い会場で、沿道の子どもが地方車と遊んでくれるんです。今思い出しても、すごい光景でした。

ここ数年、県外チームがすごい勢いで増えてますけど、当時はそこまで多くなかった。県外は興味ない感とかあったんですよね。そんな時代で地方車と高知の子どもたちが遊んでくれるのって嬉しかったなあ。

「かざるま」やチームコンセプト「目には見えない思いのつながり」に繋がっていきような素敵で印象深い光景でした。

毎年、アンケート

でも踊り子たち、地方車とお客さんの絡みが良かったっていうね。とても多かった。手作りしてた時代だからこそできる、表現方法やっただけあって、思います。それではですね、

最後、真面目なお話をしたいなと思います。ココまでも真面目だったんですけども、ぴとう20周年に向けて、カウントダウン始まるうとしてます。たいが的には、20周年に向けて、チームにどう関わっていいかな？とビジョンなどあれば教えて下さい。

チームがあり続けることが大事だと思ってます。

20周年は節目ではあるけど、通過点。ずっとずーっとあり続けるチームであってほしい。僕はチームが好きだし、チームコンセプトが好きだから。

僕は、その年に自分ができることをやっていけたらいいかなあとは思いますが、それがいち踊り子かもしれないし、ツイッターの中の人かも、もしくは演舞に関わる人かもしれないその時のチームの状況や代表の要請で、柔軟に都合のいい男になればいいかなあ、って思ってます。



わかりました。今後のたいがの関わりにも、皆さん楽しみにしていただきたいと思えます。

最後に、インタビュを受けてもいいですし、びとうについてもいいですし、広報班の告知でもいいですし、何でもいいので、最後の一言で締めたいと思います。

僕はあきべーより偉い！

以上です！